

はたらくを、しあわせに。

株式会社 Legaseed
代表取締役

近藤悦康
Yoshiyasu Kondo

CROSSMEDIA PUBLISHING

幸せな人生とは

正しい決断をすることではなく、

自らの決断を

正解に変えていくこと

はじめに

私は、当時創業14年目、社員20名ほどの中小企業に、新卒で入社しました。その会社の社長と、たまたま参加したキャンプで知り合い、意気投合したのがご縁でした。

入社初日に言われた言葉が、今でも鮮明に記憶に残っています。

「近藤くん、上司や私を見て仕事をしないように。社会を見て仕事をしなさい。働くことは社会に価値を創造することだからね」

この言葉は、今でも、私の働く姿勢につながっています。

現在私は、「はたらくを、しあわせに。」を経営理念に、株式会社 Legased (レガシード) という会社を経営しています。創業6年目のベンチャー企業ですが、2020年卒の新卒入社を希望する学生応募は1万7000人を超え、2021卒の楽天みんな就調査の人気インターンシップランキングでは、総合10位、人材業界部門で1位の評価

をいただきました。社員みんなのおかげで、業績も創業から右肩上がり、黒字経営を続けています。

当社は発展途上の会社ですし、私自身、経営者として、まだまだ未熟で猛勉強中です。そんな中でも、素晴らしい仲間と、こうやって素晴らしい仕事を毎日できているのには、明確な理由があると思っています。

それは、**20代に入社した会社で、猛烈に、徹底的に働いた**からです。

当時、よく周囲から「いつ寝ているんですか？」と聞かれました。

正直、なるべく寝たくなかったです。たまに路上で力尽きて寝ている日もありました。嘘だと思われるかもしれませんが、仕事がしたくて仕方がなかったのです。自分では「仕事」ではなく、志を叶えるための「志事」だと思っていました。

とにかく世の中に価値を創造したかったんです。

自分の入社した会社を、日本一にしたかったんです。

早く一流のコンサルタントになりたかったんです。

会社や上司から「仕事しなさい」と強要されたことは一度もありません。

だからと言って仕事人間というわけではなく、プライベートも存分に楽しんでいました。ただ、若いときは稼いでも、目一杯遊ぶのでお金は貯まりませんでした(笑)。夜寝る前になると、「一日24時間では足りない、早く明日になれ!」といつも思っていました。毎日、会社に行って、仲間と共に働くことが楽しみでした。

振り返ると、人生で一番自分が磨かれ、充実感や達成感を味わい、たくさん仲間をつくることができたのは、「働く時間」でした。お金だけではない、多くの財産を得ることができたのです。

この経験から、働く時間の充実が、人生そのものの充実につながると確信し、レガシードの経営理念が生まれました。

「はたらくを、しあわせに。」

この本では、私がこれまで7万人の若者に出会い、講演やセミナーでお話ししてきた、働く時間を充実させることで、人生を豊かにするアイデアをお伝えしたいと思います。

寝ている時間に幸せはあるか？

私は、寝ることは好きです（笑）。十分な睡眠がとれなくて翌日、頭が働かないのは嫌です。

嬉しいエピソードの夢を見て、鮮明に覚えているときはたまにありますが、寝ている時間は無意識です。幸せ不幸せ、楽しい辛い、嬉しい悲しいなどの感情が記憶されるのは、意識があって活動しているときです。

そして、活動している時間に、肯定的感情を味わう機会が多ければ多いほど、充実感が生まれ、人生が幸せだという実感につながります。幸せをつくるには、眠りから

覚めた時間の充実が大切なのです。

そう考えると、無駄に寝るのはもったいない気がしてしまいます。私はできるだけ早く起きて、活動したいという気持ちが強いので、寝ることも好きですが、起きてから、幸せを創造できる活動ができる時間のほうがもっと好きなのです。

幸せの時間は一体いつなのか？

では、活動時間には、どんな時間があるのでしょうか？
社会人の活動時間を分類すると、一般的には、

- ・プライベートの時間
- ・家族との時間
- ・働く時間

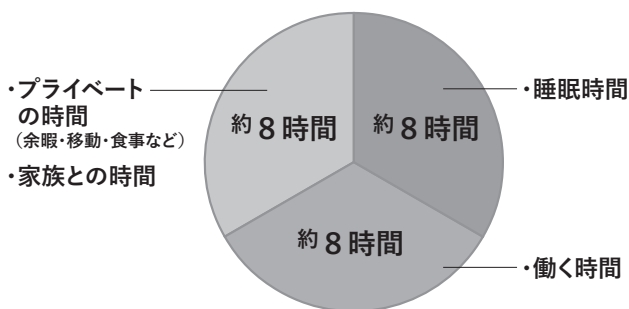
の3つに分けられます。

この中で比較的幸せをつくりやすいのは「プライベートの時間」です。

自分の欲求のみを満たせる時間ですから、食べたいものを食べたり、好きな動画を見たり、行きたい場所に足を運んだりする中で、幸せを感じられます。

好きな人にフラれたり、大切な人と関係がうまくいっていないときは辛いと感じることもあります。比較的、自分の意思で幸せをつくりやすい時間です。

社会人の24時間の使い方例



睡眠時間を除くと24時間のうち半分が働く時間

次に「家族との時間」です。結婚すると家族との時間が増えていきます。夫婦の時間に加え、子どもが生まれると、子どもと過ごす時間も増えます。

現在、日本では、結婚をしても離婚する数が年間約22万件（平成27年度厚生労働省「人口動態統計の年間推計」）と多いです。「3組に1組が離婚」「約2分間に1組が離婚」とも言われています。家族との時間で幸せをつくるには、プライベートの時間は簡単ではなさそうです。

この問題も掘り下げたいところですが、この本のメインテーマは、もう1つの時間です。それが残る「働く時間」です。あなたが学生なら、「学校の時間」と置き換えでもよいでしょう。

働く時間は幸せか？

想像してみてください。1日24時間のうち、寝る時間を除くと、少なくとも活動時間の半分は「働く時間」なのです。

でも、朝起きたとき、「よし、朝から会社だ！早く起きて仕事したい！」という社会人はあまりいないと思いませんか？

働く時間を楽しみにしている社会人は、現実的に少ないのです。

プライベートは楽しく過ごせるのに、なぜか幸せを実感できない、という人の多くは、おそらく、「はたらくを、しあわせに。」できていないのです。

同様に、学生であれば、「よし、一限目から授業だ！早く起きて学校行きたい！」と思えていないのではないのでしょうか？この感覚が社会人になっても続き、毎日過ごすのはもったいないことだと思えます。

ちなみに私は都内に住んでいますが、昔から、自宅と会社は歩いて行ける距離にしています。なるべく移動時間をかけず、早く仕事に着手したいからです。

仕事の都合でたまに、朝の通勤ラッシュ時に電車で移動することがあります。その際、電車内のビジネスパーソンの表情を見ると、イキイキとした顔はほとんど見かけません。

日本人で熱意あふれる社員は6%

働く時間が幸せではない人が多い、というのは、私の実感だけではありません。

米国最大の調査会社・ギャラップ社が従業員のエンゲージメント（仕事への熱意度）を全世界1300万人のビジネスパーソンに調査した結果によると、日本の「熱意あふれる社員」の割合は6%。32%の米国に比べると著しく低く、139カ国中132位の数字です。（2017年Stage of the Global Workplace Gallup）

また、企業内に諸問題を生む「周囲に不満をまき散らしている無気力な社員」の割合は24%、「やる気のない社員」は実に70%に達しています。

やる気生まれない社員は、会社に行って仕事をやるよりも、家で寝ているほうが幸せだと思っているのかもしれない。

しかし、私たちは、家で寝るために生まれてきたわけではないと思います。それは

自分の時間の使い方、すなわち命の使い方として、あまりにもったいないのではないのでしょうか。

幸せは誰がつくるものなのか？

私は、両親のおかげで私立の大学に通わせてもらいました。

飲食店を経営していた父は、私が高校2年生のときに癌で他界しました。闘病生活は5年にわたり、その間にお店を閉め、経済的に裕福ではありませんでした。

父が亡くなった後、ある程度の保険金を受け取ったものの、その金額では、私が入学しなかった大学の入学金や授業料をまかなうことができませんでした。そこで母親は、祖母や親戚に頭を下げ、不足分を捻出してくれたのです。

つまり私は、父の死と母の愛がなければ、自分の行きたい道を選択することすらできなかつたのです。

そのため、自分で言うのもなんですが、私は「熱意あふれる学生」でした。

どうにか希望の大学に入学できた私は、この学校にあるものは全て吸収してやろうと思いました。その気概だけは、誰よりも強かったと思います。

そんな私の大学時代は、本当に充実した時間を過ごすことができました。たくさんものを吸収して、幸せを感じていました。

これは、私が熱意を持って、とことん自発的に動いていたからこそ、得られた実感です。

私はよく、学生さんに「学校が自分を幸せにしてくれると思う？」と問います。

すると、ほとんどの人が首を横に振ります。お金を払って通っているわけだから、学校が私たちを幸せにしてくれてもいいような気もしますが、現実は違います。学校は決して、私たちに幸せを与えてくれるわけではありません。

学校が与えてくれるのは、学校にある環境や施設やカリキュラム、先生や仲間です。それらを、いかに**“自分で”**活用し、充実や楽しさ、成長を創造できるのが、学生には問われているのです。

会社は私たちを幸せにはしてくれない

そして、会社も学校と同じです。

会社が私たちに、幸せを与えてくれるわけではありません。

私は会社説明会で「レガシードに入ったら幸せになれると勘違いしないでください」と最初に伝えます。

もちろん、私は経営者ですから、社員が幸せに働ける環境づくりに尽力します。しかし、入社したら幸せが保証されているわけではありません。それは、東大生が全員幸せになれるとは限らないように、どんな有名企業、大手企業でも同じです。

会社は、環境や商品や信頼、上司や仲間を提供してくれます。それらを、“自分が”うまく活用して、充実や成長や価値、最終的な豊かさなどを創造できるかどうか問われているのです。

たとえば、同じ会社に入社した同期10人の初任給は一緒だとします。しかし、10年

後の給与はどうか？ きっと人によって差が出ているはずですよ。

同じ会社で同じ年月働いても、働き方次第で報酬も役割もポジションも変わってくるのです。当然、個々人の充実感、幸せにも差が出るでしょう。

あなたは、どれくらい今いる環境を能動的に活用できているでしょうか？

幸せは与えられるものではなく、
自ら創り出すもの

目次

はじめに 3

寝ている時間に幸せはあるか？ 6

幸せの時間は一体いつなのか？ 7

働く時間は幸せか？ 9

日本人で熱意あふれる社員は6% 11

幸せは誰がつくるものなのか？ 12

会社は私たちを幸せにはしてくれない 14

1章 はたらくは、しあわせか？

人生は「固定の砂時計」。

砂が無くなったら人生は終わる。

だから理想をもち、叶える過程を楽しむ。

落ちた砂の総量が一緒の人でも、その輝きは違う 26

今から変えられるのは未来の砂 29

幸せをつかみやすくするたった1つの発想 31

理想は「夢」と「志」の2つに分けられる 33

志は働くことで叶えられる 35

夢と志はどちらが先か？ 36

夢はあっても志がない 38

未来設計は7つの分野で書き出そう 40

やりたいことは、横に並べず、縦に並べて全部やる 45

もしかしたら、働くことは楽しいものではない 48

幸せは後味で噛みしめる 50

2章 はたらくの、先にあるものは？

全ては出会いで決まる。

チャンスを手にする人は

自分に投資をして

信頼残高を増やしている。

- マッキンゼーに入社した東大生 54
- 志を持つと環境を言い訳にしなくなる 56
- 志は考えても見つかからない、出会いで決まる 59
- せっかく出会っても、角度を決めないとダメ 64
- 角度の合った環境に身を置くと幸せになりやすい 68
- 自分の限界を、自分で決めてしまわない 70
- 20代で志を見いだし、実現に向けて歩む人の特徴 74
- 信頼は積み重ねからのみ生まれる 77
- 人からもらったチャンスが、志の種になる 79
- 出会った瞬間の「やりたい」は、本当の「やりたい」ではない
- 自力の限界を知り、他力を活用する 83
- 81

3章 はたらくが、しあわせになる

変わらないものに共感し、
変わってしまうものに動揺せず、
変えていけるものに集中する。

同じ環境に、なぜイキイキ族とモンモン族がいるのか？ 90

モチベーションが高い人の共通点①【意味のつけ方が違う】 94

同じ仕事をしていても見ている視点が違うと、やる気が変わる 96

モチベーションが高い人の共通点②【言葉の選び方が違う】 100

3秒ルールを使えば、世界が変わる 102

モチベーションが高い人の共通点③【主語の置き方が違う】 107

変えられるものにフォーカスを当てる 109
成果が出ないと、やる気は持続されない 112
悩んだときは、人生理念と入社動機に立ち返る 115

4章 はたらくに、付加価値をつける

リスクとチャンスは表裏一体。
一見リスクに見えるものが、
後々チャンスだったと気づく。

学生と社会人の違い 120

価値と報酬の原理 124

成長する人材がとる4つの選択肢 127

成長の5段階ステップ 131

負荷の先にこそ付加価値がつく 134

「成長痛」があるから成長できる 137

リスクとチャンスは表裏一体 139

5章 はたらくを、超えろ！

幸せになる人の当たり前は、
不幸せになる人の非常識。

よい習慣づくりが、幸せになる近道。

ベストコンディションは5つの管理の徹底から 146

ベストコンディションをつくる自己管理① 健康管理

ベストコンディションをつくる自己管理② 感情管理

ベストコンディションをつくる自己管理③ 時間管理

ベストコンディションをつくる自己管理④ 情報管理

ベストコンディションをつくる自己管理⑤ 資金管理

自己管理を習慣化し、定期的にチェックする 187

179 171 163 157 150

おわりに
191